

# うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵日より  
第43号

2020(令和2)年7月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

## 待望の大和機、来る — 350年以上にわたって受け継がれ —

待望の大和機(やまとばた)が、ようやく拙宅に届きました。出来たばかりの大和機です。3年間、恋い焦がれて待ち続けた大和機です。製作して下さったのは滋賀県にお住まいの木工所の職人さんです。相楽木綿伝承館を介してのオーダーメイドで、京都府木津川市にある京都府立山城郷土資料館に保存されている大和機をモデルに製作していただきました。※大和機に関しては本誌第4号、27号も併せてご参照ください。

筆者が大和機にこだわる理由は、元来は奈良晒、すなわち麻織用として開発導入されたと考えられる大和機が、江戸時代後期以降、『木綿織』として奈良盆地とその周辺部に普及し、1970年代初め、大和緋(木綿)の生産が終焉を迎えるまで、350年以上にわたって受け継がれた(横山浩子「奈良の傾斜型高機『大和機』を考える」『染織情報α』2020年3月号3頁)伝統的な織機であるからです。また、江戸時代を通して綿作が盛んに行われていた大和において、中期以降に発展する綿織物業を支えた農村婦女子が、自家用・賃機用を問わずに使いこなすことを求められた織機でもあったからです。大和機と同系統の織機は京都をはじめ東は三重、愛知、静岡、西は兵庫、岡山、鳥取などの各県にも分布しているものの、やはり中心は奈良県で、県内全域で様々なタイプの大和機が確認されています。天理大学附属天理参考館の2階常設展示室にも、桜井市大豆越に伝わる大和機(機材に旧蔵者「山中」の文字あり)が展示されています。

なお、大和機は明治時代の中期以降、改良機である飛び杼式織機(ボタン)等にとってかわられてまたたくまに姿を消し、その技術の伝承さえもが一度は完全に途絶えかけた織機です。その大和機の復元と製織技術の復元研究に取り組んでおられる元帝塚山大学教授の植村和代氏は、「大和機」の呼称について以下のように解説されています。

— 今度は『日本永代蔵』を見てみたい。「巻五 大豆一粒の光り堂」の冒頭に、「鑛(あらかね)の土割、手づからに畑うち、女は麻布を織延、足引の大和機を立て、東あかりの朝日の里に」とあるので。足引は「やまと」の「やま」にかかると共に「足を使う」の意味も含んでいるのであろう。天秤腰機も足で紐を引く操作があるが、片足だけを使う。それに比して大和機は両足で踏む操作があり、より足を使う。また「立」という表現も、背の低い江戸時代前期の天秤腰機に比べて、大和機は高く立っていることを示しているように思う。「足引の大和機を立て」は、高機である大和機の特徴をよく把握した文学表現であると思える。『日本永代蔵』の刊行は1688年である。江戸時代の早い時期に何の説明もなく「大和機」という表現を使っているのは、既に固有名詞として一般に知られていたからではないだろうか。江戸時代が始まる慶長年間には存在していた可能性が高い。—

(植村和代『ものと人間の文化史169 織物』法政大学出版局 2014年刊 286頁より)

ちなみに、上記の「朝日の里」とは、現在の天理市佐保庄町。木綿庵の畑のすぐ近くです。佐保庄には「朝日」とともに、この物語の主人公九介の在所「川畑」という小字名が残っています。



届いたばかりの大和機 2020. 6. 28納品

### Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和2年6月24日～令和2年7月23日)  
0件

【H.A.M.A.木綿庵】(令和2年6月24日～令和2年7月23日)

メールを含む各種相談件数6、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数2件3名



## 《綿の栽培記録 2020》－ 令和2年度版 その6－

天理市乙木町における梅田の感覚的観測データです。○=晴れ。△=曇り。×=雨。○/×=晴のち雨。○|×=晴時々雨。△:×=曇り一時雨。6月26△:×、27△、28×/○、29△、30×。7月1△、2△、3△/×、4×、5△|○、6×、7△|×、8×|△、9×|△、10×|△、11×/△、12△、13×|△、14×、15△|○、16×|△、17×|△、18○|△、19○|△、20○|△、21○、22△|○、23△、24△/×、25×。

摘芯を行いました。1号、5号、6号、7号畑の綿木は7月2日に、8号畑の綿木については7月14日に実施。1号、5号、6号、7号畑ではおおよそ60～80cm、8号畑ではおおよそ100～110cmを目安に摘芯。また、今期初の開花を和綿は7月3日に確認。洋綿は7月9日頃に初開花した模様。なお、7月14日に2回目の追肥を行い、有機化成888約10gずつを株元から約20cmほどのところに棒肥の要領で施肥。今年は6月末から雨の日が多く、根腐れを起こしたと思われる株が2株あるもののそれ以外は順調で、7月20日頃より開花盛期に入った感じです。現時点での株数は1号畑=和綿(白)140株、洋綿(白)39株。5号畑=和綿(白)122株。6号畑=和綿(白)136株、洋綿(緑)3株。7号畑=和綿(白)91株。8号畑=和綿(茶)68株、和綿(白)2株、洋綿(茶)2株。写真左より：1号畑の和綿、110cm。洋綿、108cm。いずれも7月24日撮影。5号畑の和綿赤木と青木の花。いずれも7月19日。



## 《紅花と藍の栽培記録 2020》－ 令和2年度版 その4－

紅花が6月末に満開を迎えました。今期の紅花収穫量は8号畑、6月24日-25日=360g。26-27日=328g。27-28日=469g。28-29日=278g。7月3日=130g。5号畑、5日=450g。計2,015g。花摘みの手伝いを申し出て下さった方のお蔭で、大量の花びらを収穫することができました。紅花は花期を終えるや、瞬く間に枯死。なお、7月14日には6号畑において藍の一番花を確認しました。写真は左から紅花、藍、洋綿(白)と洋綿(緑)。



### 【綿の加工の作業記録】 (梅田 1 人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：平成30年, 2018年産。丹羽正行氏による打ち綿)  
6月24日～7月23日 (作業実日数26日) 糸の総量103.4g (27.6匁) 総時間307分 (5時間7分)  
※1分間≒0.337g 1時間≒20.2g (5.4匁)

### 【研修等の記録】

- 令和2年06月29日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:現地研修。天理市中山町のトマト栽培農家。
- 令和2年06月30日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:実習。栽培野菜の管理、収穫。刈払機の保守管理。
- 令和2年07月05日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にて機織り。
- 令和2年07月06日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:現地研修。橿原市の「まほろばキッチン」。
- 令和2年07月07日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:実習。栽培野菜の管理、収穫。ハウス内防除。
- 令和2年07月12日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にて機織り。
- 令和2年07月13日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:講義。果菜類の栽培Ⅱ、農業経営Ⅰ「儲かるとは？」
- 令和2年07月14日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:実習。栽培野菜の管理、収穫。農薬の分類。
- 令和2年07月20日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:講義。県内農産物流通とマーケティングについて。
- 令和2年07月21日「NAFIC」(桜井市)短期農業研修:実習。栽培野菜の収穫。鳥獣害対策と電気柵設置。
- 令和2年07月23日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にて機織り。
- 令和2年07月26日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」(京都府相楽郡精華町)にて機織り。